

令和5年度 学校関係者評価

令和5年度の「自己評価」として、授業評価（新カリキュラムの新設科目、専門基礎分野の一部、校内実習）、学校生活に関する評価、学校運営評価を実施し、学校関係者評価委員会を開催しました。

1. 時期 令和6年5月15日（水）

2. 学校関係者評価委員

氏 名	所 属
武村 妙子	船橋市立医療センター 副院長兼看護局長
廣田 桂子	卒業生
仁田 善雄	医療系大学間共用試験実施評価機構 理事
久保田 伸司	船橋市立船橋高等学校 進路指導部長

3. 学校関係者評価委員からの意見と本校の回答

授業評価
意見 1. 外部講師と教員の評価では、外部講師の方がほとんどの項目で若干低めの結果がみられた。意見・感想では教員の評価の方が厳しめの意見が多くみられた。例年このような結果であるが、外部講師の評価結果の差が大きいことも検討できるとよい。質問項目を少し検討してもよいのではないか。
回答 1. 外部講師の評価結果の差については今後検討する。 授業評価の質問項目は、文献を参考に評価の視点を【学生自身の取り組み】【授業の進め方】【授業の内容】【総合評価】としている。今後検討する。
学校生活評価
意見 1. 新たに購入したシミュレーターは具体的にどのようなことが経験できるのか。 2. 従来のシミュレーターと新たに購入したシミュレーターの2台で運用しているのか。観察に関して高性能になっているということか。話はできるのか。 3. 令和4年度と5年度の評価結果の比較で、令和4年度の方が全体的に安定して高めである。COVID-19の影響がみられていないようである。可能であれば令和2年度、3年度も追加した結果があるとわかりやすい。 4. 卒業した学年の結果から1年次と3年次の比較に大きな差はみられないことから、回答の信頼性がある程度保証されている。他の評価項目では3年次の方が高いが【満足度】はほぼ同スコアだったのが興味深い。
回答 1. 従来のシミュレーターに比べ、新たに購入したシミュレーターは具体的な状況設定ができる。例えば、術後の患者のドレーンの挿入部位の設定、その状況に合わせたバイタルサインなど自由に患者

設定を変化させられる特徴がある。またフィジカルアセスメント時の心音や腸音の聴診、患者の状態に応じたバイタルサインの変化を把握するための聴診、顔色の変化など従来型よりも進化している。

2. 新たに購入したシミュレーターのみで運用している。教員がタブレットから喋ると人形の口から言葉が発せられる。心電図モニターの波形も表示でき脈の早さも変化できる。

3. 令和5年度はCOVID-19の影響がほとんどない年度であるが、令和2年度～令和4年度よりも評価結果が低くなっている。現役率は令和2年度76.1%、令和3年度80.0%、令和4年度85.3%であるが、令和5年度は72.1%と低く、このことも影響しているのではないかと考えている。学年カラーの影響も大きい。

4. 【満足度】は、評価指標の3と4はどちらもプラス評価である。しかし4を付けた学生は1年次23名、3年次27名、3をつけた学生は1年次11名、3年次16名だった。回答数の違いは1年次34、3年次43でありこのことも影響しているのではないかと考える。

学校運営評価

意見

1. カリキュラム、【学校生活関連】の事務対応、【施設・設備の管理・運営】の清掃の項目が評価され良好な結果であった。

2. 評価として大変よい。教員が話しやすくてよく話を聞いてくれるなど、教員への評価が高い。1年生には異なる意見もあるが、3年生にそのような意見がないことは、COVID-19で授業等も大変な中でも教員との信頼関係があると考え。努力されている。

3. 学生の実習を受け入れる立場として、【教育課程】で「受け入れ側の体制も十分ではない」という指摘がある。実習指導者会議の場ではなかなか難しいが、当院の実習担当の副局長や教育担当師長と、お互いに学生にとって良い実習ができるように話を進めていければと思う。

4.

・周囲の方から看護専門学校と看護系大学でどちらが有利かと相談される。今は大学の奨学金の制度も進み、県内や市内の病院に勤めれば授業料がすごく安くなるなど授業料でも差がなくなっている。受験生確保として本校はどのような対策をしているのか教えてほしい。

・自校では、一般受験を受ける生徒はかなり少なく、指定校推薦、公募推薦、大学では総合型選抜を受験する生徒が非常に多い。実際専門学校への希望者がここ2年で半分弱程度に減った。その理由は、専門学校はある程度就職先が絞られて専門分野しか学べないが、大学は4年間かけて、その専門分野以外も学べて進路の変更も可能であり進路の幅も広がると話す。実際に働くまでもう少し猶予が欲しい、将来を決めかねている生徒が最近は増えている。看護の場合は大卒でも専門卒でも現場で働くので大きな違いはないと思っているが、将来のことが明確に見えてない生徒が少し増えている印象がある。

・大卒と専門卒では、入職してから大きな差はないと感じている。入職してから基礎から学んでいるので、大卒の方が広い分野で学んでいるが両者の違いはあまりない。今後はどのようにアピールしていくのが課題である。

5. 学生個人がコンピューターを持ち込み、Microsoft 365を利用できるようになり、どのようなメリット（費用、維持費、ソフト代など）があったのか少し数字的にあるとよい。

6. 船橋市立医療センターが令和9年度移転予定だということで、来年度高校に入学した生徒が卒業するタイミングの頃かと思う。本校は移転しないがどのような問題が出てきて、対応をどのようにされていくのか。

7. レーダーチャートは、線の種類を年度により変更しないとわかりにくい。

回答

1. カリキュラムは教員に、事務対応は事務職員に、施設の清潔に対しては外注の清掃職員にフィードバックを行い仕事のモチベーション維持につながるようにしている。

2. ありがとうございます。

3. よろしく願いいたします。

4.

・本校は授業料の安さが特徴の1つだが、そこがあまり魅力ではなくなっている。少人数制の良さや、船橋市立医療センターで大半の実習ができるところが本校として強みなのでアピールしていきたい。オープンキャンパスなどで在校生と触れ合い、本校の教員、先輩たちと学びたいという志望動機に繋げていきたい。学校の良さを感じてもらえるような機会を増やしたい。

・学校説明会に参加した高校生に対して、看護師になるのを決めているかと聞くと、以前はほとんどの参加者が看護師希望であった。しかし、最近は高校3年生対象の学校説明会でもまだ決めかねていると答える人が多い。医療分野には進みたいが職種を迷っているという人が増えた印象がある。学校のアピール以外にも、看護師としての魅力も伝えていきたい。

・高校生の数が減っており、教科の試験を受けずに小論文だけで合格できるような学校も増えている。本校は、科目の受験をせずに入学して、3年間で卒業させられる保証があるのか疑問に感じており、現在のところ小論文のみでの入試の予定はない。

5. 費用や維持費については為替の変動で若干の増減はあるが、利用しやすい料金で使用できている。マイクロソフトオフィスが付いていないパソコンを購入しても、在学中はMicrosoft 365のオフィス各ソフトが使用できるためソフト代の負担はない。インターネットの速度が遅いという意見に対しては今後検討する。

6. 現時点ではどのようなことが課題になるか明確になっていない。今年度は実習病院の移転を経験した近隣の看護専門学校で情報収集をしていく予定である。一番の課題は、学校と船橋市立医療センター間の移動距離であると考えている。現在は教員が実習指導中に授業がある時は、その時間だけ学校に戻っているがそれができにくくなる。また、船橋市立医療センターの外部講師も同様の課題が考えられる。本校では対面での授業を基本にしているが、場合によっては、ICTの環境を利用したオンライン授業などのより積極的な活用を検討していく必要がある。さらに病棟の配置も変わると聞いているので、学生の実習グループ編成、実習体制なども検討していく必要がある。

7. ご意見にありましたレーダーチャートの表記に関しましては改善いたします。